〔新収品紹介〕

田能村竹田筆「親鸞上人剃髪図」について

このたび当館では、田能村竹田筆「親鸞上人剃髪図」(紙本着色、113.3×43.3、昭和８年７月25日重要美術品に認定）を購入し、昭和59年1月5日(木)より2月12日(日)まで開く「江戸時代の絵画」展において初めて公開しますので、ここにその大略についてご紹介しましょう。

筆者の田能村竹田(1777～1835)は豊後国岡藩の侍医の子で、名を孝憲(こうけん)、字を君彝（くんい）と言い、竹田その他の号があります。25歳のとき江戸に出て谷文晁について画を学び、帰国後儒者として岡藩に仕えましたが、37歳のとき病身を理由として隠退しました。それ以後は郷里の竹田と京都・大阪の間を往来し、旅と詩と画の世界に生きる文人墨客としての生活を送りました。

彼は江戸時代の南画家の中でも、学問的教養の深い典型的な文人で、『山中人饒舌』や『竹田荘師友画録』などのすぐれた文人画論を書きました。また、頼山陽、小石元瑞、浦上玉堂・春琴父子、岡田米山人・半江父子、上田秋成、篠崎三島・小竹父子、菅茶山、本願寺雲華、青木木米、松村景文、大塩中斎(平八郎)、江芸閣、朱流橋、僧鉄翁、木下逸雲らの知識人や芸術家と交わり、作画上の広い視野と豊富な糧を得ました。

竹田は江戸時代の南画家の中でも後期に登場しましたので、初期の池大雅や与謝蕪村とはちがって、中華文人の思想や生活、あるいは明清の南宗文人画についての知識もかなり豊富に持っていました。そこで彼の詩意をおりこんだ山水画、新しく日本に渡来した中国の明清風の花鳥画に学んだ作品には、濃い中華趣味が現われています。しかし、身近かな風景や風俗をさりげなく描いた作品には、日本人としての彼の個性がにじみ出ています。また、彼は生来病身であったせいか、小品の画帖なでにその特徴がよく出ているようです。

「船窓小戯帖」(重要文化財)はその一例です。文政12年（1829）４月に、竹田は海路瀬戸内海を通って上洛しましたが、この画帖はその折に見た各地の風景や風俗を描いたものです。船旅の途中に触目したほほえましい光景もとりあげられており、固苦しい文人画というよりも、日本の風物に関心を示した親しみ深い作品です。

今回の「親鸞上人剃髪図」は格別に小品というべき絵ではなく、また気楽な気持で描かれものでもありませんが、やはり日本的題材によった竹田としては比較的珍らしい絵です。この絵は太平洋戦争前の研究雑誌や美術書にはよく掲載されており、重要美術品にも認定されていますが、戦後は久しく行方不明で、研究家の間でその出現がまたれていたものです。今回幸いにも再び発見されて、当館の所有に帰すこととなったことは、まことに喜ばしい次第です。

浄土真宗の開祖親鸞(1173～1262)は、伝えるところによると、公卿日野有範の子で、承安３年４月１日京都に生まれ、４歳で父の死にあい、８歳でまた母を失って出家の志を発しました。そして、９歳のとき遂に剃髪して比叡山に登り、範宴と称し僧としての修行をはじめたといわれています。

本図は竹田がこの親鸞出家の情景を想像をまじえつつ描いたもので、画面内の近景には牛使いや従者のいる牛車が見えますが、これは貴族の子としての後の親鸞が乗り捨てたものでしょう。中景には、僧に伴なわれて叡山に登ろうとする稚児姿の親鸞が表わされています。そこで本図は剃髪図とはいっても、頭をそる場面を描いた歴史画ではなく、むしろ春の野の行楽図といった雰囲気を感じさせます。

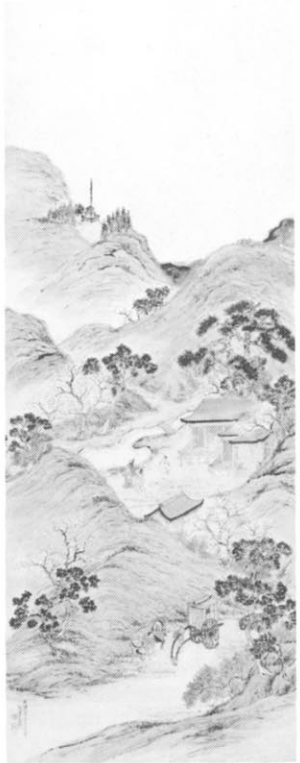
本図では人物、檜皮葺の建物、牛車などは全く古典的な大和絵の技法で描かれています。そして、この方面での竹田の技術は相当のもので、彼が単なる中国模倣の南画家ではなかったことを示しています。これに対し、山や丘を描く皴法（しゅんぽう）は、南宗画でよく用いる披麻皴（ひましゅん）で、やわらかな山肌を表わしています。また、花咲く桜や樹葉はこまかな点描で表わされています。こういうところはまさに南宗文人画そのものです。

そこで、この「親鸞上人剃髪図」は、鎌倉時代の絵巻物の場面を中国明清直伝の南宗山水画の中に、まくばったものと申せましょう。しかし、全く不調和なものを感じさせず、両画風の融合によりかえって新しい雰囲気の画境を築き上げているところには、竹田のすぐれた画才がうかがわれます。

本図の向って左下方には「天保四年七月初三日　竹田生憲作」と謹直な書体で落款があり、「憲生」(白文連印)と「竹田」(朱文楕円印)の二印がおしてあります。この天保４年（1833）に57歳であった竹田は３月に入京し、７月に郷里の竹田に帰っています。本図は７月３日、帰国の直前に竹田が豊後岡藩の京都藩邸で描き、はじめは東本願寺にありました。

その後、近代の東洋古美術蒐集家として有名であった九州電気軌道株式会社重役の松本松蔵（双軒庵）氏の手に移り、その後他の所蔵家や業者の手を経て、このたびめでたく当館に安住の地を得たわけであります。

（成瀬不二雄）



親鸞上人剃髪図　竹田筆

親鸞上人剃髪図（部分）

船窓小戯帖（部分）　竹田筆

季刊 美のたより No.65
昭和58年 11月 18日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.